

地域農業と農家の活性化により地産地消を推進

道の駅かなん 駅長 ^{さかうえ} 阪上 ^{かつひこ} 勝彦氏

(大阪府南河内郡河南町)

道の駅の概要

「都市と農村を結ぶ交流ステーション」として地場産農林産物・農産加工品等の直売活動や「創業祭」をはじめ「なにわの伝統野菜フェア」

「いちじく祭」「新米フェア」等のイベント開催、消費者・援農ボランティアとの交流活動を通じて「農」への参画・理解を推進しています。また、販売活動においても、消費者ニーズを把握しながら作付けに活かし、地産地消を合言葉に農家が活発に活動しています。



< 阪上 勝彦さんからの最近の活動報告です >

農家の栽培技術の向上と販売活動

1. 各部会ごとに 時期・品目・特性・品質を考慮した研修会を机上、圃場で開催しています。
2. 収穫適期や販売規格、栽培の基本である土作り、有機栽培の研修会を開催しています。(部会 : 野菜、果樹、花木、農産加工、堆肥、交流体験)



圃場での講習



みかん剪定講習



切花種子は種講習

3. 生産者が自ら野菜の良さや園芸品の管理方法を消費者に伝えるイベントを開催しています。



新米フェア



いちじくまつり



園芸相談コーナー

食育と交流体験活動

1. 町立学校給食センターと連携し、年数回の「お野菜まるごと河南町の日」を実施し、町内の5小学校へその日の給食で使った野菜や地域特産物、地域の農業等の出前授業を行い、児童に野菜、農業の素晴らしさを伝えています。
2. 大阪市内の消費者グループ、援農グループ、生協グループの栽培支援を受け入れながら、「農」への理解と栽培に関する技術や情報の提供、併せて消費者ニーズ等の意見交換及び地域の史跡・観光等の情報を発信しています。
3. 大阪市内の幼稚園児・小学生とそのPTAの方々を交えた、野菜、果実等の栽培・収穫体験ができる「楽習農園」を実施しています。



小学校への出前授業



援農グループの農作業



幼稚園児の収穫体験

なにわの伝統野菜の復活

1. 平成10年に大阪市内の漬物屋さんから町内農家と、その当時、JAの職員だった私に、栽培の依頼があったのが、私と伝統野菜との初めての出会いで、伝統野菜復活へのプロローグでした。(初めて持ち込まれたのは「毛馬胡瓜(けまうり)」でした。)
2. その後は、栽培経験のあった母と共に栽培を行いました。しかし、病害虫に弱いことと、長いので曲がり易く秀品率が悪いこと、また収量が一定でないことに苦労し、毎年、試行錯誤しながらの栽培でした。
3. 毛馬胡瓜の後作に「天王寺かぶら」「田辺大根」「金時人参」等の伝統野菜の栽培に取り組み、また夏作において、「勝間南瓜(こつまなんきん)」「玉造黒門越瓜(たまつくりくろもんしろり)」「鳥飼(とりかい)なす」の栽培にも取り組み、「道の駅かなん」のオープンに合わせ「なにわの伝統野菜」のPRに努めました。生産者組織の設置と大阪府の協力のもとに「伝統野菜の認証制度」の確立に力を注ぎました。
4. 現在は、消費者へのPRの為「料理レシピ」の作成配布と試食を交えたイベントを開催しながら、普及推進と栽培面積の拡大に努めています。

道の駅かなん

- 所在地: 大阪府南河内郡河南町神山523-1
- 電話番号: 0721-90-3911
- URL: <http://www.michieki.jp/kanan/>

仕事人のプロフィール

- JA大阪南 約40年在職
- 河南町農業委員会 18年(内会長3年)
- 大阪府「農」に親しむライフスタイル府民推進会議 会長
- 河南町農政審議会委員・河南町都市計画審議会委員
- 地域特産物マイスター(なにわの伝統野菜)



最初に持ち込まれた「毛馬胡瓜」